

# 日本史Bシラバス

教科名	科目名	対象学年	単位数	教科書
地歴	日本史B	3年	4	「新選日本史B」東京書籍 「図説 日本史通覧」帝国書院

## 1. 学習目標

我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

## 2. 学習計画

学期	月	単元	学習内容	指導のねらい
1 学期	4 (10)	第1章 古代国家の形成	1 更新世の日本 2 縄文文化 3 弥生文化と小国家の形成 4 大和王権と古墳文化 5 律令国家の形成と展開 6 推古朝の政治と飛鳥文化 7 律令国家の成立・白鳳文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候や地形、動物相・植生の变化などの自然環境に着目させる</li> <li>・食料獲得方法や道具の変遷、呪術的風習、地域的な差異等を理解させる。</li> <li>・富の蓄積、習俗や墓制の推移などの社会変化を理解させる。</li> <li>・小国の形成・大和王権に至る過程と古墳文化を東アジアとの関係に着目</li> <li>・推古朝から律令体制の成立、奈良・平安時代初期の政治の動向を知る</li> <li>・遣隋使・遣唐使による文物・制度の影響にも着目して捉えさせる。</li> <li>・古代文化はその国際性を持つ文化であることを考察させる。</li> </ul>
	5 (12)		8 奈良の政治と天平文化 9 平安初期の政治と文化 10 武家社会と摂関政治 11 国風文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平安初期の律令体制の崩壊と立て直しを考察する。</li> <li>・東アジア世界との関係の変化、公領の変質や荘園の拡大、武士の台頭などに着目して、律令制の変質と摂関政治や院政の展開を理解させる。</li> <li>・遣唐使停止や地方の動向に着目し、大陸文化を消化し日本の風土や生活に適応した新しい貴族文化が進展していったことを考察させる。</li> </ul>
	6 (12)	第2章 武家社会の形成	12 荘園と武士団の成長 13 院政と平氏の台頭  1 鎌倉幕府の成立 2 執権政治の展開 3 元寇と御家人社会の変質 4 鎌倉文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武力をもつようになった武士が朝廷・院に取り立てられ活用される流れと武士団の成長に気付かせる。</li> <li>・実質的な土地支配権が次第に地頭に握られたこと、鎌倉幕府が二元的支配から次第に公家政権より優位に立つようになったことに着目させる</li> <li>・武家社会の成立や庶民の経済活動の活発化などの社会変化を背景にして、文化に新しい気運が生まれたことを理解させる。</li> <li>・南北朝の動乱から戦国時代への歴史の流れを捉える。</li> </ul>
	7 (12)		5 室町幕府の成立 6 倭寇と東アジアの交易 7 下剋上の社会と戦国大名 8 室町文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庶民台頭、産業経済の発展や下剋上など中世社会の多様な展開を知る</li> <li>・武家文化と公家文化の融合や庶民文化の萌芽など文化の動向を知る。</li> <li>・大航海時代と言われる世界史的背景にも着目して理解させる。</li> <li>・桃山文化が振興の大名や都市の豪商の精神を反映していることの理解</li> </ul>
2 学期	9 (12)	第3章 近世社会の形成 と庶民文化の展開	1 ヨーロッパ人の渡来 2 織豊政権と桃山文化 3 江戸幕府と諸藩 4 身分制度の確立 5 鎖国と幕府政治の進展 6 経済と産業の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幕府と藩、農民支配の特色、経済的基盤、封建的身分制度などの理解。</li> <li>・鎖国政策については貿易統制、禁教という側面とともに、オランダ、中国、朝鮮、アイヌとの交易にも留意し、鎖国の歴史的意義を理解させる。</li> <li>・文治政治に転換し安定した幕藩体制下での社会を考察させる。</li> </ul>
	10 (14)		8 学問の興隆と元禄文化 9 幕藩体制の動揺 10 新しい学問と化政文化 11 幕藩体制の危機 12 開国・幕府の滅亡 13 近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町人文化は全国的商業活動の拡大による都市発展。町人の経済的繁栄を背景に、庶民の生活意識を反映した文化であったことを理解させる。</li> <li>・商品経済の発展、農民層の分解など、社会構造の変化について理解する</li> <li>・洋学・国学などの新たな学問・思想の発展や江戸を中心とした町人文化の形成などを、時代的背景に留意させながら考察させる。</li> <li>・開国によって国際社会に組み込まれる中で、尊王攘夷運動や倒幕運動を経て明治維新に至る過程について考察させる。</li> </ul>
	11 (14)	第4章 近代国家の形成 と国民文化の発展	1 富国強兵への道 2 殖産興業と文明開化 3 明治初期の国際情勢 4 専制政府への批判 5 立憲政治の成立 6 新しい生活と文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策について、欧米列強との関わりに着目して政治、外交、経済など様々な面から考察させる。</li> <li>・日清・日露戦争を清国の朝鮮政策やロシアの極東政策、日本の大陸政策など、世界史的視野から考察させる。</li> <li>・韓国併合や満州への勢力拡張などを通じた植民地支配を考察させる</li> <li>・社会問題、労働問題が発生して社会運動が起こったことに着目させる。</li> </ul>
	12 (12)		7 日清戦争と資本主義の成立 8 日露戦争と資本主義達 9 近代文化の発達 10 第一次世界大戦と日本 11 新たな国際秩序と政党政治の実現 12 大正文化と市民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化の上に欧米文化を取り入れられた近代文化の性質を知る。</li> <li>・第一次世界大戦とその前後の国際社会の動向に留意して、我が国の対外政策や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察させる。</li> <li>・大衆社会の成立の中での政党政治の発展を、政治や社会運動の動向に留意して考察させる。</li> <li>・労働者の増加や高等教育の拡大による大衆社会の成立に着目し、形成された大衆文化の特色について考察させる。</li> </ul>

学期	月	単元	学習内容	指導のねらい
3 学 期	1 (12)	第5章 現代の世界と日本	1 揺れ動く経済と中国侵略 2 日中戦争と新体制運動 3 太平洋戦争 4 占領と国内改革 5 占領と日本国憲法の成立 6 冷戦の開始と経済復興 7 国際社会への復帰 8 対米協調 9 経済の高度成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際経済、全体主義の台頭、中国の民族運動など世界情勢と、軍部の政治的進出や経済恐慌など国内政治と経済の動揺に着目し理解する。</li> <li>・戦時体制下の国内経済と国民生活の変化に気付く。</li> <li>・学問・思想や教育に対する統制など、全体主義的国家体制の進展と国民生活について考察させる</li> <li>・対日占領政策及び戦後の民主化を進める諸改革の内容を考察させる。</li> <li>・占領政策とアメリカの対世界政策の転換と結び付きに着目させる。</li> <li>・サンフランシスコ平和条約調印と日米安全保障条約の内容を考察させる。</li> <li>・高度成長とそれに伴う新しい外交関係、国民生活の変化と経済発展に伴って表面化した社会問題について考察させる。</li> </ul>
	2 (10)		10 激動する国際情勢 11 安定成長と保守回帰 12 新しい国際秩序と日本 13 激変する世界と日本 14 現在の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドル危機・石油危機など世界経済変化や国政治の動向を踏まえせる。</li> <li>・低成長下の日本経済と貿易摩擦、国民意識の変化と政局の動向を考察させる。</li> <li>・冷戦の終結と激動する国際情勢、国際的経済秩序の転換の中での日本の政治・経済のあり方を考えさせる。</li> <li>・国内政治の課題とともに、地球的規模の課題と日本の役割について考えさせる。</li> </ul>

※月の欄中の（ ）内の数字は月あたりの時間数

### 3. 評価の観点及び趣旨

- ① 関心・意欲・態度  
歴史的事象について関心と課題意識をもち、意欲的に追及することを通して国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。
- ② 思考・判断  
歴史的事象を世界的視野に立って多角的、多面的に考察するとともに、国際社会の変化に的確に対応し、公正に判断する。
- ③ 資料活用の技能・表現  
諸資料を吟味して確実なものを選択し活用することを通して歴史的事象を追及する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現する。
- ④ 知識・理解  
我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、知識を身に付けている。

### 4. 評価の方法及び評価資料

- 日々の授業やノートのみと、宿題・課題などの取り組み状況
- 中間・期末などの定期考査や単元のみと、まとめで行われる単元テスト
- 夏休みや冬休みなどの長期休業中の課題
- 課題追求学習におけるレポートや発表
- 新聞の活用・図書館での資料（歴史書や写真集など）の活用

これらを学習過程ごとに設定された学習到達目標に照らし合わせて評価を進める予定。